

情報紙

MELON



Miyagi Environmental Life Out-reach Network

2007年1月★第71号



年頭に思うこと

理事長 木村修一

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、アメリカでは、イラク戦争を始めたブッシュの政策が修正を余儀なくされて

いるというのに、日本の動きを見ていると、ブッシュの片棒を担ぐ方向に舵をとられたまま、突き進んでいるようにみえてなりません。殊に心配なのは、愛国心を担ぎ出して、日の丸を掲げるとか、君が代を歌うとかといったある形をとらなければ愛国心がないと決め付けるような論理が声高に主張されていることです。

私が小学校6年のとき、アメリカとの戦争が始まり、県立中学に入るときは戦闘帽でゲートルを巻く軍人服が制服となり、中学3年のときには学徒動員令で、家を離れ飛行機工場の寮に入れられ、朝から晩まで工場で働き、一切勉強ができない一時期を過ごしました。当時私たちが受けた教育は「国のために死ぬことをいとわない愛国心を持つ子どもの育成」だったのです。工場では爆撃と機銃掃射に何度も曝され、自分は何時死ぬのか？と本気で悩んでいました。アメリカ軍が沖縄に上陸し、本土上陸がささやかれるころには、中学生だった私たちは、本土防衛のため、爆雷を抱いて匍匐前進し、戦車に飛び込む訓練が始まったのです。まさに現在イラクなどで見られる自爆テロの訓練です。昼は工場で、夜、寮に帰るとこの訓練でした。配属将校に名前を一人ひとりと呼ばれて覚悟

を言い渡されたとき、震えが止まらなかったと覚えていますが。でも私はまじめな愛国少年でしたので、「アメリカが上陸してきたら、親兄弟や日本人のため、犠牲になってもやむをえない」と戦車に飛び込むことを真剣に考え決心していたのです。当時のまじめな子どもにとって、選択肢はそれしかなかったのです。私たちは、その時代、なにかといえ「君が代」を歌い、日の丸鉢巻をつけて飛行機作りに励んだのです。「君が代」と並んでよく歌ったのが「海ゆかば」でした。「海ゆかば水漬(みず)くかばね、山ゆかば草むすかばね、大君の辺にこそ死なぬ、かえりみはせじ」この歌も愛国心を高揚させるものでした。私は、陸軍大將が総理大臣となって戦争を始め、批判をいっさいゆるさず、子どもを含めてやみくもに国民皆兵にかりたてる上で「日の丸」や「君が代」がはたした役割を考えると、複雑な気持ちになるのです。上に述べたように、声高な主張は戦争の非人間的で悲惨さを知らない人たちだからこそ言えるのではないかと思うのですが、このような意見も「愛国心がない」と抹殺されるのでしょうか？

愛国心についての論議を十分にすべきです。みんなが納得しないままに教育基本法を改正するのは何故なのでしょう？誰だって子どもや家族、そして自分の住む国を愛しています。だからこそ戦争をするような国にしたくないのです。愛国心を「君が代」を歌うとか「日の丸」を掲げることできめつけ、それを奨励することにむしろ不気味な疑問を感じるのは私だけなのでしょう？

*** Index ***

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| P2-3. 100万人のキャンドルナイト連動企画レポート | P6. 報告 市民講座 食パターンはどう伝わりどう変わるか |
| 報告 市民講座 小さなろうそく物語 | 報告 第11回 MELON「みんなでおさがり市」 |
| 報告 CLUB-FOREST | P7. コーナー ストップ温暖化センターみやぎ「通信」 |
| 報告 社のともしび LIVE | コーナー MELON 協力団体の情報コーナー |
| P4. 報告 仙台圏エコ・ミーティング vol.1 | P8. ご案内 市民講座のお知らせ |
| シリーズ かんぎょう読み聞かせ | 報告 ボランティア参加の報告 |
| P5. 報告 市民講座 伊豆沼の自然体験 | 報告 会員状況、新入会員紹介 |
| コーナー MELON20周年を目指せ！ | 編集後記 |
| 50人リレートーク | |

1000000 人のキャンドルナイト連動企画レポート特集



第7回 MELON 環境市民講座レポート
小さなろうそく物語

12月10日(日)に太白区市民センターの調理実習室にて第7回目のMELON環境市民講座を開催しました。インターン生の企画によるもので、キャンドル作家のITO AYAさんを講師に手作りのリメイクキャンドルを作ろうという試みでした。

ある人は無心に、ある人は談笑しながら、それぞれのキャンドルを作っていました。また、キャンドル作りだけでなく、なぜリメイクキャンドルを作るのか?ということから「100万人のキャンドルナイト」についても話をしました。頭だけではなく体を使うことで、気張らずに地球環境への想いを深めることができたのではないのでしょうか。今後もこのような講座を開催していけたらなあと考えています。

キャンドル提供：仙台国際ホテル



06MELON エコプロジェクト 杜のともしびLIVEレポート
eco と音楽のコラボレーション

キャンドルナイト連動企画、06MELON エコプロジェクト「杜のともしびLIVE」を12月14日(木)Zepp Sendaiで開催しました。

企画は実行委員が行い、「若い人に、普通の人に、環境を考えてもらうキッカケづくりをしたい!」という思いを込めて準備を進めてきました。

今回、主旨に賛同してくださった出演者は、曾我部恵一さん、稲垣達也さん、VOXRAYさん。皆さん多方面でご活躍中の魅力的なプロのミュージシャンの方々ばかり。とても贅沢なLIVEとなりました。

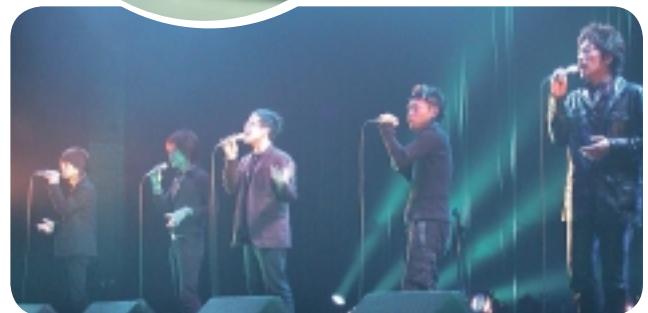
総合司会にはフリーアナウンサーの櫻田彩子さんをお迎えしました。日ごろ行なっている環境の取り組みについて、出演者にお話をうかがいながら、参加者に環境への配慮を呼びかけていただきました。

ステージにキャンドルをともし演出を行い、参加者にはリメイクキャンドルをプレゼントしてキャンドルナイトへの参加も呼びかけました。また、'92年に行なわれた地球サミットで12歳の

少女が環境保全を訴えた「伝説のスピーチ」を上映した他、ドリンク用には使い捨てのプラカップの代わりにリユースカップを導入して、環境に配慮した行動を実践してもらえるようキッカケづくりを行いました。



稲垣達也さん



VOXRAYさん

CLUB-FOREST レポート
自然のおとしもので作るクリスマスツリー

毎月 1 度開催している環境サロン「CLUB-FOREST」でも、12 月 16 日（土）にクリスマス企画を催しました。100 万人のキャンドルナイトの取り組みについて話題を提供した後、自然の落とし物の小枝や藁で土台を作り、まつぼっくりやオーガニック綿、リボン、フェルトで飾りをつけました。ツリーだけではなくリースやオーナメントも登場し、アイデア豊かな大きささまさまのクリスマス飾りができあがりしました。

作成中には「自然のもので作るのっていいね」という声も聞こえ、参加者の皆さんは「家に帰ったらさっそく飾ります」とできあがったツリーを大事に持ち帰りました。

CLUB-FOREST では環境について考えるきっかけ作りの場として、今後も参加型の企画を行う予定です。開催情報は随時 MELON の Web-Site に掲載しますので、ご覧の上興味のあるテーマの回にはぜひご参加ください。



…アンケートより参加者の感想…

とてもためになりました。
 今日をキッカケに
 工つを心がけたいと思います。

いやされ、感動させられ、
 考えさせられるコンサートでした♪
 あいごうございます！

またやってください。
 いいイベントでした！

人目ははからず、自然と笑顔になれる
 ところも良いライブでした。ライブを通
 して主催者側の考えもじっくり伝わっ
 てきて、とても深刻にないみたいです、暗
 くならずに楽しく環境について知るこ
 とができました。来て良かったです。

とても楽しいコンサートでした。
 寒い寒い僕の心に
 ホッと温かさをおいごう。

あたたかい時間でした。
 リコーサクツよかったです。

…「リオの伝説のスピーチ」を聞いて…

小さい事しかできないけれど、
 自分のできる事から環境に良い
 事をやっていこうと思いました。

あたり前のことがあたり前じゃな
 い。毎日を過ごしていることを改め
 て考え直すよい機会になりました。

涙が出ました。
 感動しました！

涙がとまりませんでした。
 一人ひとりが
 考えなければと思います。

文章になったものより
 熱意が伝わる
 スピーチでした。

正直、泣けた。

関わってくださった
 すべての人のココロに、
 あたたかい eco の炎が
 やさしくとまりますように。

「仙台圏エコ・ミーティング vol.1」レポート 垣根を越えて 環境の集い

11月9日(木) せんだいメディアテーク7F 会議室にて「仙台圏エコ・ミーティング vol.1」を開催しました。これは企業や団体、学生など、環境のことを考えるあらゆる人々が所属や立場を越えて集い情報交換できるような、ゆるやかなネットワークを作ることを目的に開催したものです。数社の企業の方とMELONが発起人となり企画しました。第1回目の開催となったこの日は、環境のことを考える企業や活動している人たち50人が集まりました。発起人が活動事例の発表を行なった後、お茶とお菓子をふるまい、参加者に自由に情報交換をしてもらいました。参加者



からは、「ふだん会えない人たちと話しができて良かった。」「いわゆる環境イベントとは雰囲気違って楽しかった。」といった感想をいただきました。今後の開催については未定ですが、環境団体や個人と企業の方が触れ合う機会は少ないので、長く続けていきたいと考えています。



湿原の神

江戸時代にはまだ日本各地にタンチョウ(ツル)がいて、狩猟は「ご法度(はっと)」だったので、明治になるとその歯どめがなくなり、乱獲でほとんど絶滅しかけました。最近保護の活動でやっと1000羽まで戻ったそうです。タンチョウのすむ湿原がどんどん無くなり、道路がどんどん伸びていき、建物が進出していく。化学物質の中毒や感電、あるいは交通事故で死んでいくタンチョウもあります。

今回はそのタンチョウをめぐるお話です。竹田津実作、あべ弘士 絵「どうぶつさいばん タンチョウは悪代官か?」(2006年4月、偕成社)を読んでみましょう。北海道の湿原が舞台です。ヤチウグイがタンチョウを、自分たちを食べる悪代官だと訴え、動物たちの裁判となります。裁判長は「カッポン」となくワタリガラス、タンチョウの弁護士はカワウソ、ヤチウグイの弁護士はヒ



グマです。この訴えたヤチウグイも準絶滅危惧種なのです。被害を受けている生物が、被害を受けている動物をうたっているわけです。動物たちの双方のいい分を聞き、裁判を進めていくと、人間の考え方に行き着いてしまいます。動物たちでは解決のつかないやるせなさが伝わってきます。

訴えようという気持ちを抑えながら読むことを意識しましょう。あなたは何種類の声色ができるかを楽しんでみましょう。

議論がないまま防衛庁が防衛省に格上げされました。何年前でしょうか、かつてに隣の国を敵に見たてて、ひそかに北海道での作戦を練っていたのは、究極の環境破壊は「戦争」であり「軍隊」だとうことを私たちは見のがしてしまっているのかもしれない。アイヌ語でサルルンカムイ(湿原の神)と呼ばれるタンチョウが私たちを訴える、もっとやるせない日がくるかもしれません。

第 5 回 MELON 環境市民講座レポート

伊豆沼の自然とブラックバス

10月28日(土)、栗原市若柳にある伊豆沼に行ってきました。伊豆沼の自然に触れる前に、(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究員の進東健太郎さんから伊豆沼についてお話を伺いました。水深が最大でも1.6mしかないこと、そのほとんどは1mしかないという意外な事実や、沼が昔に比べあまり利用されなくなったことなどを聞きました。特に興味深かったのは、伊豆沼に生息する二枚貝が大型化しているにも関わらず、その個体数は減少しているという事実でした。ブラックバスの繁殖により若い個体が育ってこない、生き残ってこないという事実に危機感を覚えました。

その後、伊豆沼を観察し、唯一参加の小学生の男の子が熱心に進東さんに質問をしている姿が印象的でした。また、お昼に頂いた伊豆沼の天然のうなぎはもちろんですが、ブラックバスが思いのほか臭みがなく、美味しかったことには驚きまし

た。駆除するだけではない、こういう処理の仕方もあるんだなぁと実感しました。このように頭、体、そして舌を使って感じてきた伊豆沼。仙台からは地理的に少し遠いけれど、少し身近に感じられるようになり、伊豆沼を守らなければ！という気持ちが湧いてくる、そんな1日でした。

Report 南頼彦(水部会)



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク

第14回目の執筆者
小島あずささん
(JEAN/クリーンアップ全国事務局)

海のごみ問題に関わって17年になる。根本的な改善のために、捨ただけではなく、国際的に統一された様式でごみの内容調査をする『国際海岸クリーンアップ』の日本の窓口として、全国各地で海や環境に関心をもつ人たちとともに歩んできた。活動開始当初は、10年くらいがんばって活動の成果がでたら、めでたく団体を解散しようと思っていた。しかし、ようやく最近になってこの問題の重要性が認識されはじめ、国の動きも遅まきながら始まったところで

ある。継続が大切とはよく言われることだが、言うは易しで、仲間たちとともに意欲を保ち続けるのは簡単なことではない。

これまでの数十年間に人間が出したプラスチックゴミの一部は海に溜まり続けている。回復には、その何倍もの時間がかかるかもしれない。ゴミによる海への汚染は加速しているように思えてならないが、それが杞憂に終わってほしいと願いつつ、日々海岸へと足を運ぶ。これからも、現場を第一に行動していける自分でありたいと思っている。いつか、ゴミのない海岸をのんびり散策できる日を夢見ながら。

次回予告

遠山伸子さん(仙台市青葉区在住)。
分野の異なる複数の活動に関わっておられます。



第 6 回 MELON 環境市民講座レポート 食の伝統と伝承

11 月 13 日（月）木村修一理事長を講師に、食パターンについての講演会を JA ビル宮城にて開催した。

今、食物を作る人と食べる人の距離が離れすぎ、作っている人の事や“いつ”“どこで”“どう作られているか”考えられなくなっている。赤ん坊は「母乳」という、世界共通の食べ物で育てられている。その母乳の成分は分析からしてもほとんど差がないが、離乳食に入ると各国・地域により変わってくる。また、はじめから人間の食物があったわけではなく、その地域にある動植物の中から試行錯誤し、食物としてきた。当然、毒も含まれている。例えば豆類には毒があり、日本人が常食している“大豆”。多量に食べると甲状腺が肥大するが、ヨード分を含む海藻類を食べることで解毒するという知恵を働かせてきた。



全ての動物は、離乳後も親と同じものを食べ、食は引き継がれている。宮城県では数十年前までは、離乳食として、おもゆ、みそ汁、かみ砕いた魚などであったが、“今”を考えると離乳食をどう位置づけるか混乱の中にある。日本では、輸入食品と加工食品があふれ、便利さに流されているが、食の伝統・親から子への食パターンを受け継いでいくことと、低い食料自給率をあげていくことが求められている。

Report 秋山 悦子（緑・食部会）

第 11 回 MELON「みんなでおさがり市」レポート おさがりして家庭のごみ減量！

11 月 26 日（日）、勾当台公園市民ひろばで第 11 回 MELON「みんなでおさがり市」を開催しました。11 月最後の日曜日の開催となりましたが、天候に恵まれ、フリーマーケットブースには 80 店余りの店が並びました。協力団体の朝市・夕市ネットワークは産直野菜市と豚汁販売、乾燥生ごみと野菜の交換を、株式会社サイコーでは無料で紙すき体験を実施し、イベントを盛り上げていただきました。



MELON カフェ



おさがり服コーナー

今年新しく登場した MELON カフェでは、100 円以上の寄付をいただいた方にあたたかい飲み物または手作りお菓子を提供しました。お菓子はおさがり市実行委員やボランティアによる手作りで、できるだけオーガニックな素材を使用して作りました。ほっと一息つけるコーナーがあって良かったと好評で、22,770 円の寄付が集まりました。この寄付金はおさがり市運営費の補填として使わせていただきました。

毎年恒例の、おさがりできる衣類を無償で提供してもらい希望者にその場で販売する「おさがり服コーナー」では、子ども服や婦人服がよく集まり、63,041 円の売り上げがありました。この売り上げ金は平成 18 年佐呂間町竜巻支援義援金として全額を寄付いたしました。協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

ストップ温暖化センターみやぎ『通信』Vol.31

各県センターの重要性を訴える

10月25日(水)にストップ温暖化センターみやぎの長谷川公一センター長が都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会の代表として、環境省若林正俊大臣に面会してきました。大臣面会に幹事センターをはじめ顧問センター、全国センター、日本環境協会、環境省大臣の選出地である長野県センターがオブザーバーとして参加し、宮城県センターの長谷川センター長が、各県センターの現状及び京都議定書目標達成の観点から、新規事業を含めた事業の重要性を訴えました。今後も都道府県センター連絡会の代表幹事として環境省や関係省庁に各県センターの重要性を訴えていきます。



各協同組合からのお知らせ

MELONの協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

みやぎ生活協同組合からのお知らせ

2006年度みやぎ生協の環境測定活動

～身近な環境を調べることで、わかることがいっぱい～

水辺の観察と水質測定報告

みやぎ生協では、川や海、湖や沼と親しくなろう、水辺について考えていこうと、毎年夏に「水辺の観察と水質測定」に取り組んでいます。今年も、わたしたちが持っている五感を使っての水辺の観察とCODパックテストという方法で水質測定を行いました。

- *調査期間/2006年7月20日(木)～8月21日(月)
(学校7月1日(土)～7月31日(月))
- *調査場所/211地点
(宮城県内の57河川、8湖沼、5海域)
- *参加者の数/1083名(うち子ども711名)
- *調査の方法/五感を使った観察・CODパックテスト・水辺の写真撮影

★わかったこと
宮城県の水辺は、全体的に比較的良い状態で安定しているようです。緑に恵まれ、自然の音も聞くことができ、たくさんの鳥や昆虫・水生生物を観察できました。

酸性雨測定

毎年梅雨時期に自宅に降る雨を測定し、雨の影響などを調べています。

- *調査期間/2006年6月11日～7月10日
- *調査地点/2,403地点
- *調査方法/自宅または校庭などで24時間採雨し、BCGパックテスト法によるpHの測定。

★わかったこと

pHの中央値は4.8で16年間の測定で2番目に酸度が強くなりました。植物などに影響が出ると言われているpH4.5以下の雨の割合は増加傾向にあります。

詳しい報告書をご希望の方、または07年度の測定に参加希望の方は下記までご連絡ください。

Web-Siteに
データベースを
公開しています。
「みやぎの水辺ものがたり」
<http://www.miyagi-mizube.com/>

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
みやぎ生協生活文化部 環境活動事務局
TEL:022-218-3880
FAX:022-218-3663
メール:kankyok@snet.coop.or.jp

MELON 環境市民講座 参加者募集!

第 8 回環境市民講座

ちょっと気になる木のおはなし

森林をビジネスで、活動で、
大切に・元気にしようと
がんばっている人たちのおはなしです。

- 日時：1月20日(土) 13:30～15:30
- 会場：宮城木材文化ホール
(仙台市宮城野区苦竹2丁目7-30)
- 定員：50名(申込み先着順) ■参加費：無料

お願い! 会場の駐車スペースが限られております。
車でご来場の方はあらかじめご連絡ください。
ご連絡いただいている方のお車のみ駐車可能です。

環境学習『やってみよう!』フォーラム ～事例発表・体験・相談会～

- 日時：2月17日(土) 12:30～16:30
- 会場：せんだいメディアテーク1F
オープンスクエア
- 参加費：無料
※詳細は MELON の Web-site でご確認ください。

ボランティア募集!

このイベントでは会場準備等をお手伝いくださるボランティアを募集しています。興味のある方は事務局までご連絡ください。

ボランティア協力 ありがとうございます!

MELON 主催のイベントの準備や運営は、たくさんのボランティアの皆さんに支えられています。参加して下さった皆さん、ご協力ありがとうございました。

- * 10/14(土) MELON 情報紙発送 4名
- * 11/23(木) 杜のともしび LIVE 用
プレゼントキャンドル作り 7名
- * 11/25(土) おさがり市 MELON カフェ用
お菓子づくり 7名
- * 11/26(日) みんなでおさがり市 9名
- * 12/14(木) 杜のともしび LIVE 16名
(2006/10～12月)



※ MELON ボランティアポイント制度をぜひご活用ください。詳しい内容と最新のボランティア募集情報は、MELON の web-site にてご案内しております。

皆様のご協力をお待ちしております。

会員状況

合計	1,049
法人	118
任意団体	18
個人	913



(2006年12月12日現在)

新会員のご紹介

♪個人会員♪

山中千花(東京都新宿区)、荒木優子(大崎市)、
福嶋久美子(仙台市)、太田昭夫(仙台市)、
田口喜子(仙台市)、佐藤博子(加美町)、
佐藤潔(加美町)、佐藤史織(加美町)、
佐藤香里(加美町)、山田公子(松島町)

2006/09/16～12/10

編集後記

11月から新しく入りましたが、あっという間に一ヶ月が過ぎてもう冬です。最近冬があまり寒くないですね。少し寂しい気もします。(南)

事務局の仕事は特に季節性があるわけではないのだが、毎年12月はあっという間に駆け抜けている気がする。世の中全体があわただしいからなのだろうか?(小林)

事務局がリニューアルして早いもので約半年が過ぎました。不思議とふらっと遊びにいらして下さる方が、増えたような気がします♪(星)

秋から年末のイベントの季節、たくさんのボランティアの方と一緒に活動する機会がありました。皆さんの顔がいぎいぎと輝いていて、一緒に何かするたび元気をもらえます。(鈴木)

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL022-301-9146 FAX022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL022-301-9145 FAX022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jpn.org URL http://www.melon.or.jp/melon/

※ MELON 情報紙は古紙 100%再生紙を使用しています。